はじめに

私たちの命は，身近にある自然がもたらすおいしい水や空気，食べものなどの様々な恵みによって支えられています。自然は，多くの生きものの命と，生きもののすみかとなる森や川，海などの様々な環境とのつながりによって形づくられています。

地球の誕生以来，長い時間をかけて形づくられた生きものと地球とのつながり(生態系)の中で，自然の一員として私たちは命を授かり，生活を営んでいます。私たちの先人は，自然に寄り添い，自然と共に生きる中で，自然がもたらす四季折々の様々な恵みを暮らしに生かす工夫や知恵を積み重ねてきました。

しかし，時代とともに科学技術が進歩し，水陸の開発や生物の捕獲などが高度化・大規模化することで，人間が自然に与える影響は大きくなりました。その結果，生活は便利になりましたが，生態系のバランスは崩れつつあります。今日の私たちは，自然やその恵みの大切さに改めて気付き，自然とともに豊かな生活を送ることを求めています。この先も，子ども達が笑顔で暮らせる「多様な豊かさ」にあふれた生活を続けていくために，先人達が大切に育んできた宮城の自然を将来世代まで引き継ぎ，持続可能な社会を形成することが重要になります。

このため宮城県では，「生物多様性」を守り，その恵みを持続的に利用する視点から，本県が目指す将来像を示し，その実現に向けて全県で共有すべき考え方と実施すべき取組を整理し，平成２７年３月に「宮城県生物多様性地域戦略」としてまとめました。

「宮城県生物多様性地域戦略」の策定以降，平成２７年には生物多様性の保全と密接な関係にあるＳＤＧｓ(持続可能な開発目標)が国連サミットで採択されました。平成３１年には森林整備に活用できる森林環境譲与税が創設され，森林環境における生物多様性の保全が期待されます。また，東北地方太平洋沖地震による震災以降，海岸防災林の植林や干潟の回復などの自然の再生が進み，宮城県の生物多様性を取り巻く社会情勢や自然環境は大きく変化しています。

このたび，これらの変化に対応するために，本県の地域戦略を改訂し，「宮城県生物多様性地域戦略(第１次改訂)」を発行いたしました。

今後，この戦略に基づき，県内の豊かな自然を守り，次世代の子どもたちに引き継ぐための取組を積極的に進めていきます。